

## 研究業績目録

2016年3月18日

湯浅剛

### 1. 学位論文

『ロシア政治の変動と継続——体制転換期の統治エリート構造を中心として 1987～94年』上智大学大学院外国語学研究科国際関係論専攻提出修士学位論文、1996年1月。

### 2. 単著

『現代中央アジアの国際政治——ロシア・米欧・中国の介入と新独立国の自立』明石書店、2015年3月。

### 3. 編著

(伊東孝之監修、広瀬佳一との共編)『平和構築へのアプローチ——ユーラシア紛争研究の最前線』吉田書店、2013年12月。

### 4. 共著書籍における執筆担当章

- (1) 「政治変動論」河野勝、岩崎正洋編『アクセス比較政治学』日本経済評論社、2002年、92～108頁。
- (2) 「新興民主主義国家——中央アジア」岩崎正洋編『かわりゆく国家』一藝社、2002年、129～146頁。
- (3) 「中央ユーラシアの安全保障——米国介入のインパクト」防衛庁防衛研究所編『東アジア戦略概観 2003』財務省印刷局、2003年、53～78頁(爾後 “Security in Central Eurasia: The Impact of U.S. Engagement,” *East Asian Strategic Review 2003* [Tokyo: The Japan Times, 2003], pp. 67-95, として英訳刊行された)。
- (4) 「ロシアの対中央アジア政策——安全保障をめぐる『選択的関与』の実際」松井弘明編『9.11 事件以後のロシア外交の新展開』日本国際問題研究所、2003年、123～148頁。
- (5) 「カザフスタン——多国間主義の理念と現実」木村汎・石井明編『中央アジアの行方——米ロ中の綱引き』勉誠出版、2003年、189～209頁。
- (6) 「ロシア——ロビイング制度化への模索」河野武司、岩崎正洋編『利益誘導政治——国際比較とメカニズム』芦書房、2004年、127～144頁。
- (7) 「国際関係と安全保障——国際地域システムの形成と越境する脅威」岩崎一郎、宇山智彦、小松久男編『現代中央アジア論——変貌する政治・経済の深層』日本評論社、2004年、129～151頁。
- (8) 「2004年の中央アジア諸国——自爆テロの散発と権威主義体制の維持」アジア経済研究所編『アジア動向年報 2005』アジア経済研究所、2005年5月、627～650頁(各国基礎データ、重要日誌、参考資料を含む)。
- (9) 「2005年の中央アジア諸国——キルギスタン、ウズベキスタンでの動乱とその余波」

- アジア経済研究所編『アジア動向年報 2006』アジア経済研究所、2006年5月、621～644頁（各国基礎データ、重要日誌、参考資料を含む）。
- (10) “The China Factor in the Changing Security Environment of Central Asia,” in Hiroshi Kimura (ed.), *Russia's Shift toward Asia*, Tokyo: The Sasakawa Peace Foundation, March 2007, pp. 78-91.
- (11) 「中央アジアにおける中国ファクター」木村汎・袴田茂樹編『アジアに接近するロシア——その実態と意味』北海道大学出版会、2007年4月、118～135頁。
- (12) 「2006年の中央アジア諸国——安定と動乱、さらなる政治変動への予兆」アジア経済研究所編『アジア動向年報 2007』アジア経済研究所、2007年5月、609～632頁（各国基礎データ、重要日誌、参考資料を含む）。
- (13) “Japan’s Multilateral Approach toward Central Asia,” in Akihiro Iwashita (ed.), *Eager Eyes Fixed on Slavic Eurasia: Volume 1, Russia and Its Neighbors in Crisis* (21<sup>st</sup> Century COE Program Slavic Eurasian Studies No. 16-1), Sapporo: Slavic Research Center, Hokkaido University, June 2007, pp. 65-84.
- (14) “Russia’s Policy toward Central Asia: Tendencies of Limited Engagement,” in Adam Eberhardt and Akihiro Iwashita (eds.), *Security Challenges in the Post-Soviet Space: European and Asian Perspectives*, Warsaw and Sapporo: the Polish Institute of International Affairs, and Slavic Research Center, Hokkaido University, July 2007, pp. 118-135.
- (15) 「ロシア・中央ユーラシア——地域の概観」広瀬佳一、小笠原高雪、上杉勇司編『ユーラシアの紛争と平和』明石書店、2008年7月、85～107頁。
- (16) “Consolidating ‘Value-Oriented Diplomacy’ towards Eurasia? ‘Arc of Freedom and Prosperity’ and Beyond,” in Christopher Len, Tomohiko Uyama, Testuya Hirose (eds.), *Japan’s Silk Road Diplomacy: Paving the Road Ahead*, Uppsala and Washington, D.C.: Central Asia-Caucasus Institute and Silk Road Studies Program, Johns Hopkins University-SAIS, December 2008, pp. 47-65.
- (17) 「ユーラシアへの『価値の外交』は定着するか——『自由と繁栄の弧』構想とその後」宇山智彦、クリストファー・レン、廣瀬徹也編『日本の中央アジア外交——試される地域戦略』北海道大学出版会、2009年3月、55～73頁。
- (18) 「中央アジアのシティズンシップと安全保障——ロシア国籍と二重国籍制を中心に」堀江典生編『現代中央アジア・ロシア移民論』ミネルヴァ書房、2010年4月、269～284頁。
- (19) 「上海協力機構（SCO）——地域安全保障に向けた可能性と限界」広瀬佳一、宮坂直史編『対テロ国際協力の構図——多国間連携の実態と課題』ミネルヴァ書房、2010年4月、133～152頁。
- (20) 「中央アジアにおける国際関係の誕生——カザフスタンの動向を事例に」塩川伸明、小松久男、沼野充義編『ユーラシア世界5 国家と国際関係』東京大学出版会、2012年9月、119～142頁。
- (21) 「現代国際関係にとってのシルクロード」帯谷知可、北川誠一、相馬秀廣編『朝倉世界地理講座——大地と人間の物語5 中央アジア』朝倉書店、2012年9月、427～435頁。
- (22) 「上海協力機構（SCO）——欧米との相克と協調」吉川元、首藤もと子、六鹿茂夫、望月康恵編『グローバル・ガヴァナンス論』法律文化社、2014年2月、106～117頁。
- (23) 「アフガニスタンとその周辺地域——ISAF 撤退を見据えて」防衛省防衛研究所編『東アジア戦略概観 2014』防衛省防衛研究所、2014年3月、261～290頁。

## 5. 学術誌等掲載論文

- (1) 「北欧諸国にとっての NATO 拡大——バルト諸国安全保障プログラムをめぐる交渉過程を中心に」『国際学論集』(上智大学国際関係研究所) 第 43 号、1999 年、65～79 頁。
- (2) 「『ノメンクラトゥーラ』浸透指標によるロシア統治エリートの分析——閣僚を中心に」『ロシア・東欧学会年報』第 28 号、2000 年、136～144 頁。
- (3) 「旧ソ連諸国における秩序維持ファクターとしての『民主主義』——『移行支援機構』との関連を中心に」『国際政治』(日本国際政治学会) 第 125 号、2000 年、96～114 頁。
- (4) 「ソ連解体後の中央アジアにおける宗教と政党——タジキスタン・イスラーム復興党を中心に」日本比較政治学会編『現代の宗教と政党——比較のなかのイスラーム』(日本比較政治学会年報第 4 号) 早稲田大学出版部、2002 年、131～152 頁。
- (5) 「ソ連解体後の境界構築の諸相——ロシアの制度改編と中央アジア諸国との関係を中心に」『国際政治』第 138 号、2004 年、9～27 頁。
- (6) 「中央アジアにおけるイスラーム過激主義とテロ——主要勢力の動向と地域テロ対策を中心に」『国際安全保障』(国際安全保障学会) 第 32 巻第 4 号、2005 年、53～71 頁。
- (7) 「中央アジアにおける集団的アイデンティティ——地域秩序を形成する要因として位置づける」『ロシア・東欧研究』(ロシア・東欧学会) 第 34 号、2006 年、37～47 頁。
- (8) 「ソ連のアフガニスタン経験——外部勢力による国家形成への介入」『防衛研究所紀要』第 12 巻第 1 号、2009 年 12 月、1～28 頁。
- (9) 「ユーラシアの移民と安全保障——問題の位置づけとロシア、カザフスタンの現状」『防衛研究所紀要』第 12 巻第 2-3 合併号、2010 年 3 月、31～47 頁。
- (10) “Central Asia in the Context of Japanese-Russian Relations,” *China and Eurasia Forum Quarterly*, Vol. 8, No. 2, August 2010, pp. 119-135.
- (11) 「アナーキーとハイアラーキーのあいだ——グローバル化の中の『階層的秩序』をめぐる概念整理と分析の可能性」『コスモポリス』(上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科国際関係論専攻) 第 6 号、2012 年 3 月、11～22 頁。
- (12) 「『市民的自由の群島』ロシア——西側からの価値をめぐる作用と連携を中心に」『国際政治』第 171 号、2013 年 1 月、100～113 頁。
- (13) 「中央アジア諸国における統治と大統領リーダーシップ」『ロシア・東欧研究』第 41 号、2013 年 3 月、19～27 頁。
- (14) 「中央アジアにおけるロシア主導の多国間協力——集団防衛と経済統合の展開」『防衛研究所紀要』第 16 巻第 2 号、2014 年 2 月、53～72 頁。
- (15) 「グローバル政治の焦点としてのウクライナ紛争——国家性・地域機構・地政学」『広島平和研究』(広島市立大学 広島平和研究所) 第 3 号、2016 年 3 月、75～89 頁。

## 6. 研究調査報告など論文に準じた業績

- (1) 「中央アジア諸国の教条的民主主義——『移行支援機構』をめぐる仮説提示のための覚え書き」『ユーラシアの平和と紛争』(秋野豊ユーラシア基金) 第 1 号、2001 年、57～75 頁。
- (2) 「中央アジア諸国の対外政策の新展開——カザフスタンを事例として」『中央アジアをめぐる新たな国際情勢の展開』(平成 14 年度外務省委託研究報告書) 日本国際問題研究所、2003 年、79～95 頁。
- (3) 「日本の対中央アジア諸国外交——経緯と課題」『最近のロシア情勢と我が国の対ロシア外交のあり方に関する調査研究』(財団法人産業研究所委託研究報告書) 財団法人世

- 界平和研究所、2004年、114～124頁。
- (4) 「カザフスタン、ウズベキスタンの対外政策——9.11 事件後のロシア、米国との関係を中心に」『イラク戦争後のプーチン政権の対中央アジア政策』（平成15年度外務省委託研究報告書）日本国際問題研究所、2004年、31～45頁。
  - (5) Японская «Евразийская дипломатия» и безопасность Центральной Азии //Юй Синьянь, Чжао Хуашхэнь (отв. ред.), Ситуация в Центральной Азии и Шанхайская организация сотрудничества: Четвертая международная конференция. Шанхай: Шанхайский институт международных исследований, 2004 г. С. 319-325（日本の『ユーラシア外交』と中央アジア安全保障 兪新天、趙華勝編『中央アジア情勢と上海協力機構——第4回国際会議論文集』上海：上海国際問題研究所、2004年、319～325頁。同書88～91頁に「日本的欧亜外交和中亜安全」として中国語抄訳が掲載されている。）。
  - (6) 「政策課題としてのユーラシアと中央アジア——日本における認識と政策」小野澤正喜監修、臼山利信編『ユーラシアと日本』（筑波大学大学院地域研究研究科 Area Studies Occasional Paper Series No. 2）2006年3月、17～36頁。
  - (7) 「介入と地域メカニズムの形成——ロシア主導型地域協力枠組みの考察のための覚え書き」望月克哉編『国際安全保障における地域メカニズムの新展開』（アジア経済研究所2008年度調査研究報告書）アジア経済研究所、2009年3月、31～47頁。
  - (8) 「ユーラシア国際秩序の新展開——2008年8月、ロシア・グルジア紛争の衝撃」『中・東欧・コーカサス及び中央アジアから見た欧州の安全保障情勢』（平成20年度外務省委託研究「安全保障に関する知的交流」報告書〔主査：福島安紀子・国際交流基金特別研究員〕）財団法人日本国際フォーラム、2009年3月、39～51頁。
  - (9) 「ユーラシア安全保障メカニズムの構築——地域安全保障構想に見るロシアの対『西』政策の変質」望月克哉編『国際安全保障と地域メカニズム』（アジア経済研究所2009年度調査研究報告書）アジア経済研究所、2011年3月、51～77頁。

## 7. 翻訳

- (1) 廬慶秀「東アジア安全保障の展望——韓国の視点から」『21世紀の国際秩序と東アジアの安全保障』（平成12年安全保障国際シンポジウム報告書）防衛庁防衛研究所、2001年、37～47頁。
- (2) メフラーリー・トシムハンマドフ「秋野豊のかけがえのない思い出に捧ぐ（抄）」『秋野豊ユーラシア基金ニューズレター』（秋野豊ユーラシア基金）第11号、2004年、6～7頁。
- (3) (安野正士との共訳) レシエク・ブシンスキー「ロシアと東南アジア」木村汎・袴田茂樹編『アジアに接近するロシア——その実態と意味』北海道大学出版会、2007年4月、245～268頁。
- (4) 金晟鎮「中央アジア、ロシアにおける移民と『人間社会の安全保障』」堀江典生編『現代中央アジア・ロシア移民論』ミネルヴァ書房、2010年4月、233～268頁。
- (5) (河東哲夫、小泉悠との共訳) ドミートリー・トレーニン『ロシア新戦略——ユーラシアの大変動を読み解く』作品社、2012年3月。

## 8. 書評、文献解題

- (1) 「March, James G. and Johan P. Olsen. *Democratic Governance*. The Free Press, 1995. vi+293 pp.」『国際学論集』（上智大学国際関係研究所）第39号、1997年、95～98頁。

- (2)「フェルガナ地方の不安定要因と国際的支援——米国の研究者による最近の調査報告書より」『現代の中東』（アジア経済研究所）第31号、2001年、111～119頁。
- (3)「ヴァルダス・アダムクス『リトアニア わが運命』」『週刊読書人』2002年11月8日号、6頁。
- (4)「Lena Jonson, *Vladimir Putin and Central Asia: The Shaping of Russian Foreign Policy*」『アジア経済』（アジア経済研究所）第46巻第11-12号、2005年、161～165頁。
- (5)「Erica Marat, *The Military and the State in Central Asia: From Red Army to Independence*」『日本中央アジア学会報』第7号、2011年3月、85～89頁。
- (6)「仙石学、林忠行編『ポスト社会主義期の政治と経済』北海道大学出版会、2011年」『比較体制研究』（比較経済体制学会）第49巻第2号、2012年6月、55～58頁。
- (7)「ティムール・ダダバエフ『中央アジアの国際関係』」『ロシア・東欧研究』第43号、2014年3月、173～175頁。

## 9. その他の公刊業績(エッセイ、事典項目、講演記録など)

- (1)【エッセイ】(安達祐子との共同執筆)「第3回ソ連国費留学派遣実質的中止の経緯」『ロシア語学科便覧 1992年版』上智大学外国語学部ロシア語学科、1992年4月、28～29頁(以後、同学科便覧に複数年度にわたり転載された)。
- (2)【編集協力】日本国際問題研究所編『ロシア地域(旧ソ連)人名事典』日本国際問題研究所、1992年。
- (3)【エッセイ】「過渡期ロシアの学生生活——南ロシア・ヴォルゴグラードの場合」『ユーラシア研究』(ユーラシア研究所)第5号、1994年。
- (4)【事典項目】「(沼野充義との共同執筆)カウナス」「鉄狼団ユダヤ人虐殺」「リトアニア」梅棹忠夫監修『世界民族問題事典』平凡社、1995年、276頁、754頁、1205頁。
- (5)【研究会紹介】「中央アジアにおける国際関係とイスラーム」日本学術振興会科学研究費補助金(学術創成研究費)「イスラーム地域研究」総括班事務局編『イスラーム地域研究活動の記録・平成13年度』2002年、68～71頁。
- (6)【調査報告】「フェルガナ・プロジェクトのための現地調査及び資料収集」同上書、76～78頁。
- (7)【報告記録】「ユーラシアの多国間安全保障枠組み——上海協力機構(SCO)を中心に」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ』(中央ユーラシア調査会報告集)第1巻、財団法人アジアクラブ、2002年、103～108頁。
- (8)【報告記録】「IMU、解放党、タジキスタン・イスラーム復興党はどこまで『政党』か」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ』(中央ユーラシア調査会報告集)第2巻、財団法人アジアクラブ、2003年3月、7～9頁。
- (9)【事典項目】「カリーニングラード」「リトアニア」梅棹忠夫監修『世界民族問題事典・新訂増補版』平凡社、2003年、1275頁、1308頁。
- (10)【事典項目および編集協力】「(鳥山成人との共同執筆) ヴィリニウス」「(平井友義との共同執筆) カリーニングラード」「アダムクス」「パクサス」「ブラザウスカス」「ランズベルギス」「(一部、鳥山成人との共同執筆) リトアニア」川端香男里ほか監修『新版・ロシアを知る事典』平凡社、2004年、62頁、152～153頁、867頁、884頁、886頁、892頁、946～949頁。このほか、巻末の関連ウェブサイト一覧の編集協力を担当。
- (11)【報告記録】「ロシアの国境政策と中央アジア諸国」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ』(中央ユーラシア調査会報告集)第3巻、財団法人アジアクラブ、2004年3月、75～79頁。

- (12)【解説】「10月大統領選挙へ向けたアフガニスタン・カルザイ政権の内政・外交」『NIDS NEWS』（防衛庁防衛研究所）第79号、2004年、8～11頁。
- (13)【出張報告】「第7回サハリン・フォーラムに出席して」『安保研報告』（安全保障問題研究会）2004年9月30日号、10～11頁。
- (14)【研究会報告書：討論に参加した際の発言を収録】*Toward the New Partnership between Russia and Japan in Asia (The Russian Research Seminar Report)*, Sapporo: North Pacific Region Advanced Research Center, 2004.
- (15)【講演記録】『ロシア・第二期プーチン政権の課題——ベスラン事件の背景とロシア政治の展望』（笹川平和財団第81回理事会特別講演記録、2004年9月29日、於：日本財団ビル8階会議室）笹川平和財団オンデマンドレポート集シリーズ、2004年。
- (16)【事典項目】「安全保障 [中央ユーラシアが占める戦略的・地政学的位置] [安全保障の基本的枠組み] [域内紛争] [9.11事件後の変化]」「軍」「対テロ戦争」「麻薬」小松久男ほか編集『中央ユーラシアを知る事典』平凡社、2005年、48～51頁、183～184頁、312頁、485頁。
- (17)【エッセイ】「中央アジアにおける『テロ』の実像と虚像——フェルガナにおける動乱の展望」『日本の風』（財団法人防衛弘済会）第2号、2005年6月、50～51頁。
- (18)【座談会記録】「座談会・中央アジアの最新情勢」（司会・石井明、パネリスト・河東哲夫、野田順子、湯浅剛）岩下明裕編『ユーラシア国境政治——ロシア・中国・中央アジア』（21世紀COEプログラム「スラブ・ユーラシア学の構築」研究報告集No.8）北海道大学スラブ研究センター、2005年7月、1～24頁。
- (19)【事典項目】「OSCE（欧州安全保障協力機構）」「ヘルシンキ宣言」猪口孝ほか編『国際政治事典』弘文堂、2005年、150～151頁、902～903頁。
- (20)【コメント記録】「中央アジアにおける民主化」『第3回国際ワークショップ報告・中央アジアにおける日独協力——新たなシルクロード再興に向けて』（NIRA 研究報告書0510）総合研究開発機構、2006年3月、96～97頁。
- (21)【報告記録】「中央アジア国際関係の変動——EurAsESとCACOの拡大・組織統合を中心に」『中央ユーラシアへの多角的アプローチ』（中央ユーラシア調査会報告集）第5巻、財団法人アジアクラブ、2006年3月、79～83頁。
- (22)【解説】『対テロ戦争』での米ロ均衡と軍事態勢の模索——安全保障」北川誠一、前田弘毅、廣瀬陽子、吉村貴之編『コーカサスを知るための60章』明石書店、2006年4月、163～166頁。
- (23)【事典項目】「中央アジア」『イミダス2007』集英社、2007年1月、388～393頁（2008年より同事典が全面的に電子版に移行した後も、毎年項目の新設・改訂に携わっている。2013年版からは「ロシア・CIS」の項も担当）。
- (24)【会議報告書】(Перевод статьи А. А. Хамзаевой) Строительство двустороннего партнерства в рамках диалога «Центральная Азия плюс Япония», Казахстанско-японское сотрудничество: Состояние и перспективы (Материалы международного «круглого стола», 5 декабря 2006 г.), Алматы: Казахстанский институт стратегических исследований при Президенте Республики Казахстан, апрель 2007 года, С. 48-52.
- (25)【解説】「中央アジアのエネルギー資源をめぐる攻防——石油、天然ガス、戦略的資源ウラン」イミダス編集部編『イミダス・スペシャル——時事&トレンド解体新書』集英社、2007年11月、20～21頁。
- (26)【会議参加に関するエッセイ】“Thinking Strategically 'from the Outside In' on Central Asia: A Conference in Rome” (on the website of the Hokkaido University Global COE Program “Reshaping the Japan's Border Studies, released November 2, 2009,

- <http://www.borderstudies.jp/en/essays/essays/pdf/091015-16/091015-16.pdf>
- (27) 【エッセイ】「選挙監視活動という仕事——2010年2月、ウクライナでの経験から」『ユーラシア・ウォッチ』（秋野豊ユーラシア基金メールマガジン）第172号、2010年3月15日。
- (28) 【エッセイ】「灼熱とスモッグのモスクワにて」『ユーラシア・ウォッチ』第182号、2010年8月15日。
- (29) 【データベース記事】「カザフスタン共和国」松本弘編『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック2010』人間文化研究機構（NIHU）地域研究推進事業「イスラーム地域研究」東京大学拠点、2010年10月、321～331頁（その後、松本弘編『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック』明石書店、2011年6月、410～423頁に転載）。
- (30) 【解説】「大統領交代を迎えるロシア情勢——民主化の行方は...」『まなぶ』（労働大学出版センター）第657号、2012年3月、60～66頁。
- (31) 【事典項目】「アフガニスタン戦争（ソ連軍事介入以後）」「アフガニスタン戦争（9.11テロ以後）」「エネルギー安全保障」「カラー革命」「グラスノスチ」「グルジア紛争」「上海協力機構」「集団安全保障条約機構」「スプートニク・ショック」「全体主義」「ソ連解体」「北方領土問題」「ロシア革命」「地域的安全保障」「チェチェン紛争」「チェルノブイリ原発事故」「中ソ対立」「独立国家共同体」「BRICs」「分離主義運動」「ペレストロイカ」小笠原高雪ほか編『国際関係・安全保障用語辞典』ミネルヴァ書房、2013年4月、8～9頁、27頁、49～50頁、68～69頁、137～138頁、140頁、160～161頁、176頁、187～188頁、202～203頁、293～294頁、332～333頁。
- (32) 【解説】「ブリーフィング・メモ／安倍政権の対外・安全保障政策におけるユーラシアの位置づけ」『防衛研究所ニュース』第179号、2013年8・9月。  
([http://www.nids.go.jp/publication/briefing/pdf/2013/briefing\\_179.pdf](http://www.nids.go.jp/publication/briefing/pdf/2013/briefing_179.pdf))
- (33) 【解説】「ロシアにとってのシリア内戦——イスラーム要因と対外政策の展開」『中東研究』（財団法人・中東調査会）第519号、2014年2月、22～28頁。
- (34) 【解説】「危機は回避できたのか——2014年のウクライナ情勢と世界」『まなぶ』第687号、2014年7月、58～64頁。
- (35) 【解説】「ロシア民主主義のゆくえ——危機のなかのリーダーシップと民意」『まなぶ』第695号、2015年2月、29～32頁。
- (36) 【解説】「ソ連崩壊とカザフスタンの独立——揺らぐ連邦制の中で追求した自立」「外交・地域協力——『全方位外交』に見るリアリズム」「安全保障——軍の変化と国際平和維持活動の実践」宇山智彦、藤本透子編『カザフスタンを知るための60章』明石書店、2015年3月、137～141頁、264～267頁、296～299頁。
- (37) 【解説】「ユーラシア複合危機の中のイランとロシア」『中東研究』第525頁、2016年1月、39～42頁。
- (38) 【解説】「中央アジア・カフカス」柴宜弘編『地図で読む世界史』実務教育出版、2015年7月、46～47頁。
- (39) 【解説】「Q&A 安全保障ってなに？」『まなぶ』第695号、2016年1月、39～42頁。

## 10. 学会発表

- (1) 「ロシアにおける統治エリート構造の変動と継続——ノメンクラトゥーラ概念と利益集団理論の再検討を中心に」（日本国際政治学会1998年春季大会ロシア・東欧分科会報告、1998年5月17日、於：東洋英和女学院大学）
- (2) 「現代ロシアにおける『ノメンクラトゥーラ』残存状況」（ロシア・東欧学会第28回

- 大会第4分科会・政治II報告、1999年9月26日、於：鈴鹿国際大学)
- (3) 「中央アジア諸国における民主化の諸相」(日本比較政治学会2001年度研究大会自由企画1「民主化と国家」報告、2001年6月23日、於：神戸大学)
  - (4) “Contemporary Japanese Policy toward Central Eurasia” (Presentation for Session PO-19 “Roundtable: Bilateral Policy toward Central Eurasia: A Comparison of Approaches,” in Central Eurasian Studies Society [CESS] 4<sup>th</sup> Annual Conference, 3 October 2003, Harvard University, Cambridge, Massachusetts.)
  - (5) “Russian Engagement Policy toward Central Asia, 1992-2002” (Presentation for Session PO-12 “Factors in Eurasian Foreign Policy across Time,” in CESS 4<sup>th</sup> Annual Conference, 5 October 2003, Harvard University.)
  - (6) 「ロシアの国境政策と中央アジア諸国」(2004年3月29日、第5回日本中央アジア学会まつぎワークショップでの報告、於：静岡県松崎町商工会会議室。『日本中央アジア学会報』第1号、2005年、10～11頁に報告要旨掲載)
  - (7) 「中央アジア諸国のアイデンティティ再編」(2005年10月15日、ロシア・東欧学会第34回研究大会共通論題報告、於：西南学院大学)
  - (8) “Japan’s Multilateral Approach toward Central Asia” (Presentation for Session 3 “Central Asia: Crossroads in Eurasia,” in the SRC Summer International Symposium “Eager Eyes Fixed on Slavic Eurasia: Change and Progress,” Slavic Research Center, Hokkaido University, 7 July 2006, Sapporo)
  - (9) 「中央ユーラシア地域協力枠組みとしての上海協力機構」(アジア政経学会研究大会分科会3「上海協力機構のポテンシャル」での報告、2006年10月29日、於：横浜・慶應義塾大学日吉キャンパス)
  - (10) “Japan’s Policy toward Central Asia since 1990s: Searching Multilateral Approach” (Presentation for the Session “Central Asia and Northeast Asia,” in the Annual Conference of the Korean Association of Political Sciences, 8 December 2006, Institute of Foreign Affairs and National Security, Seoul)
  - (11) 「中央アジアの国際秩序——『新たな国際システムの出現』?」(日本国際政治学会研究大会部会3「ユーラシアの平和構築——秋野豊没後十年」2008年10月24日、於：つくば国際会議場)
  - (12) “Stability of Central Asia: An Emerging Issue for Japan-US Cooperation?” (Presentation for the Japan Session 19 “Japan and United States in South and Central Asia: Challenges and Opportunities in the Era of a Rising China,” in the Annual Conference of the Association for Asian Studies, 15 March 2012, Sheraton Centre Toronto, Canada)
  - (13) 「中央アジア諸国の統治とリーダーシップ」(2012年10月7日、ロシア・東欧学会第41回研究大会共通論題報告、於：同志社大学)
  - (14) 「上海協力機構——テロ対処・領土保全・経済協力をめぐる論理と実践」(2013年10月25日、日本国際政治学会2013年度研究大会部会2「変容する地域安全保障共同体比較——OSCE、ASEAN、SCO」での報告、於：新潟コンベンションセンター)

## 11. 上記以外の主要な研究会、シンポジウム、国際会議等での口頭発表

- (1) 「国際政治学は中央アジアをどう捉えているか——ハートランド論争『復活』をめぐる整理」(1995年6月24日、中央アジア研究会第18回月例報告会発表、於：東京大学本郷キャンパス)
- (2) 「NATO 東方拡大と北欧諸国」(1998年6月13日、日本国際政治学会院生研究会1998



- 年第3回研究会報告、於：慶應義塾大学。1998年6月20日、バルト=スカンディナヴィア研究会例会、於：早稲田大学)
- (3) 「中央アジア情勢とイスラーム——体制移行の現状」(2000年11月21日、「イスラーム文明の歴史(3) 政治と国際関係」第4回講演、於：朝日カルチャーセンター横浜)
  - (4) 「中央アジア諸国の対外政策の新たな展開」(2002年11月29日、平成14年度外務省委託研究「中央アジアをめぐる新たな国際情勢の展開」研究会、於：日本国際問題研究所)
  - (5) 「ユーラシアの多国間主義——安全保障分野を中心に」(2002年11月30日、日本学術会議主催公開シンポジウム「中央アジアをめぐる最近の国際政治経済関係」基調講演、於：大阪産業大学)
  - (6) 「9.11 テロ事件以後の中央ユーラシア安全保障——米軍介入のインパクト」(2002年12月5日、慶應義塾大学総合政策学部専門科目「地域研究(D)」[廣瀬陽子・専任講師担当] 特別講演、於：慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス。2002年12月13日、第29回国際学生セミナー「グローバル化する地域紛争」共通セッション講演、於：財団法人・大学セミナーハウス。この他の場所でも類似の講演を行う。)
  - (7) “Comprehensive Security for Japan and Central Asia” (2003年3月25日、ウズベキスタン大統領府附属戦略・地域研究所主催国際ワークショップ “Uzbekistan-Japan: New Era of Co-operation” 於：ウズベキスタン大統領府附属戦略・地域研究所、ならびに同月26日、ウズベキスタン世界経済・外交大学での講演。日本外務省講師派遣制度による。)
  - (8) Шанхайская организация сотрудничества с точки зрения Японии [日本から見た上海協力機構] (2003年10月20日、中国・上海国際問題研究所主催「中央アジア情勢と上海協力機構」第4回国際会議、於：上海・衡山賓館)
  - (9) 「現代中央アジア情勢と日本の対応」(2004年1月14日、筑波大学大学院地域研究研究科公開講演会「中央アジアと日本」第2回講演、於：筑波大学総合研究棟A107号室)
  - (10) 「旧ソ連地域の民主化と中央アジアにおける紛争——日本の役割を考えるために」(2004年3月5日、秋野豊ユーラシア基金・日本国際問題研究所共催シンポジウム「9.11後のユーラシアの地殻変動と日本」、於：日本国際問題研究所大会議室)
  - (11) 「安全保障と国際関係」(2005年7月15日、国際交流基金「中東理解講座・中央アジアを知ろう」第10回講演、於：国際交流基金国際会議場)
  - (12) 「現代国際政治の中の中央アジアとロシア」(2005年9月17日、「中央アジア近現代史：民族とイスラーム」第5回講演、於：朝日カルチャーセンター横浜)
  - (13) 「最近の中央アジア情勢——2005年12月の現地調査を踏まえて」(2006年1月30日、於：社団法人国際情勢研究会)
  - (14) 「最近の中央アジア情勢——各国の内政、地域統合の動向を中心に」(2006年2月7日、日本貿易振興会 [JETRO] 中央アジア・コーカサス研究会、於：JETRO 内会議室)
  - (15) 「国際関係研究の対象としての中央アジア——日本での現状と課題」(2006年3月31日、筑波大学・タシュケント国立東洋学大学共催国際シンポジウム「文明のクロスロード2——ことば・文化・社会の諸相」における報告、於：筑波大学)
  - (16) “Russia’s Policy toward Central Asia: Tendencies of Its Limited Engagement” (Presentation for the International Conference “Security Challenges in the Post-Soviet Area from the East and West Perspective,” 11 September 2006, Polish Institute of International Affairs, Warsaw)
  - (17) “Chinese Factor in the Changing Security Environment of Central Asia” (Presentation for the 18<sup>th</sup> Hokkaido Conference for North Pacific Issues “Issues of Framework Building for Regional Cooperation in the North Pacific: Focusing on the Relationship between Russia and Nations in Asia,” 18 October 2006, North Pacific Region Advanced Research Center [NORPAC],

Sapporo)

- (18) “Constructing Bilateral Partnership under the framework of Central Asia plus Japan Dialogue” (Presentation for the Workshop “Kazakhstan and Japanese Cooperation: State and Prospects,” December 5, 2006, the Kazakhstan Institute for Strategic Studies, Almaty)
- (19) 「旧ソ連諸国における『民主化』の解釈をめぐって——国家の多様性の理解に向けて」(2007年4月21日、「民主化」と体制転換に関する合同研究会、於：京都大学地域研究統合情報センター)
- (20) “Japan’s Developing Initiative toward Eurasia” (Presentation for the International Workshop “Japan’s Silk Road Diplomacy: Paving the Road Ahead,” September 22, 2007, Sanjo Conference Hall, the University of Tokyo)
- (21) 「日本にとってのユーラシア——位置づけと最近の政策について」(2007年10月11日、社団法人クラブ関西定例午餐会講演、於：社団法人クラブ関西)
- (22) 「アメリカの対中央アジア政策について」(2007年10月17日、PIST・中央ユーラシア調査会第80回研究会、於：財団法人・貿易研修センター)
- (23) 「ロシアの中央アジアへの選択的介入——経緯と評価」(2008年1月31日、第1回秋野豊没後10年記念セミナー、於：早稲田大学3号館)
- (24) 「ソ連末期の共和国における経済主権と自立——カザフスタンでの論調を題材に」(2008年3月19日、北海道大学スラブ研究センター客員教員セミナー、於：同センター内会議室)
- (25) 「中央アジアで何が変わったのか？」(2008年7月18日、秋野豊没後10周年シンポジウム「ユーラシアの平和構築を考える——秋野豊の遺したもの」、於：早稲田大学小野梓記念館・小野記念講堂)
- (26) Гражданство и безопасность в Центральной Азии: пробный взгляд из Японии, доклад в Втором международном симпозиуме «Миграционный мост между Центральной Азией и Россией в условиях экономического кризиса» (Российская академия наук, Институт социально-политической исследований, Центр социальной демографии и экономической социологии, 1 ноября 2010 года). (「中央アジアのシティズンシップと安全保障：日本からの試論」、「経済危機を踏まえた中央アジアとロシアの間の移民の架け橋」第2回国際シンポジウムでの報告、於：ロシア科学アカデミー社会・政治研究所社会的人口動態・経済社会学センター内会議室、2010年11月1日)
- (27) 「カザフスタンの独立と主権をめぐる議論——経済の自立と外交権を中心に」(東洋文庫現代イスラーム研究班2010年度合同研究会での報告、於：財団法人・東洋文庫内会議室、2011年3月6日)

以上